

TTC スペクトル管理 SWG 寄書

日付： 2004年 3月26日

提出元：株式会社アッカ・ネットワークス

題名： スペクトル適合性シミュレーションにおけるISDN回線の扱いについて

1. まえがき

本寄書はSMS - 09 - NTT E - 02に対する弊社の見解である。

2. NTT Eの確認事項に対する見解

芯線径0.65mm、0.9mmケーブルを用いる配線エリアでは、調べる迄も無く、換算線路長2.7km以遠でもループ抵抗が810オーム以下になりうる。

シミュレーションモデルに0.4mmポリエチレン絶縁ケーブルを用いることに決めたのだから、2.7km以遠ではISDNをカッド内干渉源とすべきではないというが弊社の主張である。また、線路損失43dB超(3.8km超)におけるISDNの隣接カッド収容を除くことが弊社の主張である。

3. 結論

シミュレーションモデルをフィールドの状況に基づき構築するならば、ケーブル線種、ブリッジタップの影響なども考慮しなければ一貫性に欠けたモデルとなる。

また、保護判定規準値を低くなるようにISDNの干渉をより大きく見込むシミュレーションモデルは既存ADSLユーザのサービス低下を招くことになる。

以上